interview #1

安田学園
中学校高等学校
稲村 隆雄（いなむら たかお）
校長先生

学園で学び、過ごす6年間を通じて、その後の人生で活かすことのできる〝何か〟をつかんでほしいと思います。

album full of memories

中学バレーボール全国大会2連覇を果たしたときのベンチの様子。

歴史ある城下町で過ごした小学生時代

私が生まれ育ったのは、茨城県の西の端に位置する古河市です。江戸時代から古河藩の城下町として栄えた場所で、歴史のある寺などが多いところでした。家族は両親、3歳年上の兄と10歳年下の妹との3人兄弟で、小さな頃は、外で走り回って遊ぶようなやんちゃな子どもでした。

テレビの刑事ドラマの影響で、「大きくなったら、警察官になりたい」と思っていましたが、母親からは「危ないから……」と反対された記憶があります（苦笑）。

小学生のときの思い出というと、とにかくサッカーです。当時の古河市は、地域全体でサッカーが盛んで全国大会で優勝するような学校もあり、市内にある四つの小学校の間で対抗戦が行われるほど。毎週、日曜日になると、どこかの学校のグラウンドでサッカーの試合が行われていて、もちろん私も、友だちと一緒に一生懸命サッカーをやりました。

勉強については、地元が歴史ある城下町だったこともあってか、社会の授業、中でも歴史の話がとても好きでした。たとえば、市内の小学校の校章はいずれも雪の結晶がデザインのモデルになっているのですが、これは江戸時代、古河藩の藩主であった土井利位（どいとしつら）が雪の結晶を研究し、日本で初めての科学的な雪の研究書である『雪華図説（せっかずせつ）』という本を発行したことに由来します。小学生の頃はこのような話に夢中になっていましたし、大人になってから、私は商業科と社会科を教える教員になるのですが、その原点は、こうした小学生時代の歴史好きにあったのだと思います。

バレーボールに打ち込み全国大会で優勝！

中学校も地元の公立校へ進学しました。この時期の一番の思い出は、何と言っても部活動です。先生に声をかけられ、バレー部に入部。最初は県大会に出るか出ないかといった成績だったのですが、私以外にも力のあるメンバーが揃ったこともあり、中学3年生のときには全国大会で優勝したのです。試合の様子がテレビでも中継されて、地元でも大きな注目を集めました。

バレー部の練習は、とても厳しいものでした。きつかったですが、仲間たちと一緒だったので、辞めようと思ったことはありませんでした。

また、指導してくれる顧問の先生とは、よく話をしたことも覚えています。当時、私は言うべき意見は先生にもはっきりと言うタイプで、先生も、

090-095_DN26-7_SND_05.indd 90-91 2026/04/10 12:28

魅力ある教育内容をつくり上げ、生徒たちの夢を実現する、良い循環を目指しています。

それをしっかり受け止めてくれました。そのため、練習や試合内容で怒られることはあっても、意見を言ったことで嫌がられたり怒られたりすることはありませんでした。これは、後に自分が教員になってからも、「生徒の意見をきちんと受け止める、そういう先生でありたい」と、いつも心に置いてきたことです。

勉強と部活との両立は大変でしたが、それでも自分なりにがんばったと思います。部活の仲間たちが皆、「スポーツだけでなく、勉強もしっかりやろう」という雰囲気が強かったことも大きかったですね。

部活引退後は、すべてを受験勉強につぎ込むという気持ちで取り組み、成績も一気に上がりました。先生にも「がんばったね」と、ほめていただいてうれしかった思いがあります。こうして、高校は地元の公立高校に無事進学することができました。

教員実習で感じた教員という仕事の魅力

高校に入ってからも部活でバレーボールを続けましたが、途中で腰を痛めてしまったこともあり、中学校のように全国優勝とはなりませんでした。加えて、進学校で同級生は全員大学へ進学するという環境だったので、1年生のときから大学受験を意識して勉強していました。

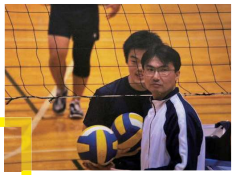
しかしこの頃は、大学に進学してその後社会人となり、将来、自分がどんな職業についていくのかという、今後の人生に対する具体的なイメージはあまりなく、教員になりたいという思いもまだありませんでした。

大学は、明治大学の商学部に進学しました。商学部を目指したのは、その頃、海外で活躍する商社の仕事への憧れがあったからです。このため、大学ではマーケティングの研究を行うゼミで勉強をしたのですが、既に教員になっていた兄からアドバイスを受けて、教員の免許も取っておこうと考えました。商学部では、商業科と社会科の教員の資格が取れるのです。

私が教育実習を行ったのは、母校である古河市の中学校。ここで、子どもたちと一緒に学校の行事に取り組んだり、授業をしたりしていく中で、大きな喜びを感じました。

そして、大学卒業後は教員として、学校で生徒たちに勉強を教えるのも良いなと思うようになったのです。その後、大学の卒業が近づき、いくつかの学校から教員となるお誘いをいただいたのですが、当時、本校の教頭先生が同じ明治大学商学部の先輩というご縁もあって、本校への入職を決めました。

album full of memories



かつての湯沢セミナーハウスでは、恒例のクラブ合宿が行われていた。

男女共学化によって学園が大きく変化

私が安田学園高等学校に入職したのは、今から37年前の1989年です。その頃の安田学園高校は、普通科・工業科・商業科のある男子校でした。私自身は小・中・高校そして大学とすべて共学で学んできたので、男子校ならではの雰囲気や環境にとても魅力を感じていました。

新人教員時代は、とにかく無我夢中でしたね。最初は商業科の教員として、その後は社会科も教えるようになりましたが、なにしろ男子校で、しかも商業科や工業科は、〝やんちゃ〟な生徒たちも多かったですから（笑）。

商業科では簿記の授業があり、生徒は簿記3級などの資格取得を目指すのですが、なかなか合格できない生徒もいて、授業以外の補習もよく行いました。また商業科や工業科では、就職指導も教員としての大切な役割です。私が入職して数年後にバブル経済が終わり、就職難の時代になったときは、とても苦労しました。

その後、時代の変化もあったのでしょう。私が入職した頃から次第に受験生が減り始めました。そして前理事長が「学園を変えよう！」という目標を掲げ、高校は工業科と商業科の募集を停止して普通科のみとなり、中高一貫教育の新体制が導入されたのです。

さらに2014年からは中学校、高校共に男女共学となり、これによって学園が本当に大きく変化したように思います。私自身も、「学校が変わるぞ！」という期待を強く感じましたし、ほかの先生からも、特に初めて女子を受け入れるクラス担任や授業を受け持つ先生からは、意識の変化が強く感じられました。そして先生も生徒も、より良い学校にしたいという思いを持ち、新体制がスタートしたのです。

こうして、2020年からは校長を務めています。本校は男女共学としたときから、今後はさらに進学校としてがんばっていこうという目標がありました。私も校長としてそれを受け継ぎ、少しでも魅力のある教育内容をつくり上げ、その結果としての大学合格実績も上げながら、さらに本校への入学を目指す受験生の数を増やしていくという循環を、教員みんなでつくっていきたいと考えています。中でも、自分の生き方を深く考える「人間力教育」は、本校の特長の一つとして力を入れているところです。

一方で生徒たちには、安田学園での6年間を通じて、勉強でもスポーツでも、あるいは人間関係でも、これからの長い人生の中で活かしていくことができる何かをつかんでほしいですね。そのために、本校を最大限利用してもらうことが、私たちの役割だと考えています。

album full of memories

春の高校バレー、東京予選の様子。東京4位で惜しくも春高出場を逃す。

稲村先生が教える

子育てのヒント

前向きなメッセージで後押しを

子どもたちには、いつも"前向きなメッセージ"を伝えていけたら良いですね。生徒に対してもそうですが、つい怒ってしまったり、頭ごなしに注意したりするのは、やはり良くないと思うのです。子どもたちは、子どもなりに苦しんでいたり、悩んだりしているときもあるでしょう。だからこそ勉強でもスポーツでも、本人の気持ちが乗っているときには、それを親として後押しできるような言葉をかけると、子どもたちはさらに、伸びるのではないでしょうか。

090-095_DN26-7_SND_05.indd 92-93
2026/04/10 12:28

school information

安田学園 中学校高等学校

未来を生き抜く グローバルリーダーとしての 可能性を伸ばす 同校の魅力を紹介します。

所在地／東京都墨田区横網2-2-25
TEL／03-3624-2666
アクセス／JR総武線両国駅から徒歩6分、都営大江戸線両国駅から徒歩3分、都営浅草線蔵前駅から徒歩10分
https://www.yasuda.ed.jp/

1.冬休みの課題として作成したスピーチ原稿を発表する英語スピーチコンテスト。**2.**「教わる時間」より「考える時間」を重視し、自ら考え学ぶ授業を展開。**3.**中高合わせて2000名以上が集まり熱戦を繰り広げる体育祭。**4.**毎年行われている日韓交流プログラムの様子。**5.**中学3年生が参加するニュージーランド短期留学。現地校で授業を受ける。**6.**2023年にリニューアルした制服。テーマは自学創"装"だ。**7.**中学1～3年生による合唱コンクール。**8.**高校生が異文化を体験するニューヨーク研修。国連本部、プリンストン大学などを訪問する。**9.**同校オリジナルの時間管理ツール「スコラ手帳」。自分の時間の使い方が可視化できる。**10,11.**根拠と論理の意識を高める探究の授業。ゼミ形式を採用し、専門的な探究を実施している。

安田学園は今から103年前の1923年に、金融や生損保、不動産業を中心とした安田財閥を築き上げた、安田善次郎が創立した「安田学園（東京保善商業学校）」が始まりです。その後、1948年に安田学園中学校・安田学園高等学校となり、現在に至っています。中高とも長らく男子校でしたが、2014年からは男女共学となり、「自学創造」を教育目標として、グローバル化する社会に適応するための学びを提供しています。

同校では、「学校生活を通してめざす力」として、「仮説力」「協創力」「実行力」「自己統制力」「人間力」の五つの力を育むことで、未来を生き抜く力を持ったグローバルリーダーとして成長できるように、生徒たちを導いています。中でも「人間力」については、校訓である誠実・明朗・奉仕の精神にのっとって、自己肯定感を持ち、真心と責任感を持って他者に対して思いやりのある行動を取ることができる力であるとし、その育成に特に力を入れています。こうした人間力教育の実践は、同校の特徴である道徳教育にも見ることができます。中学1～3年までの間、道徳の授業として、学園の創立者である安田善次郎のさまざまなエピソードを題材とした独自テキスト『生き方の探究』を軸とすることで、克己心の習得や周囲への感謝、怒りを抱かない生き方を大切にした、社会での適切な振る舞いを学びます。

中高一貫6年間の学習では、「教わる時間」よりも「考える時間」を重視し、教科を問わず、「根拠を追究」し、「なぜ」を考えることを習慣化することで、将来に必要な思考力や表現力が自然に養われていくことを目指しています。さらに、急速に変化する現代社会の複雑な課題に対応できるグローバル人財の育成を目指して、STEM(Science, Technology, Engineering,Mathematics) に加えて、芸術や文化、生活、経済、法律、政治、倫理などを含めた広い範囲でLiberaArtsを定義。文系や理系の枠にとらわれずに、各教科での学びを社会で活かしていくために、教科を横断的に活用した学習を推進しています。

さらに、グローバル教育としての英語学習、また世界を多角的な視野で見すえ、国際教養を深めるグローバル体験としての海外留学や研修、交流プログラムも充実しています。未来を生き抜くグローバルリーダーとしての可能性を伸ばす同校は、今注目すべき学校の一つと言えるでしょう。

090-095_DN26-7_SND_05.indd 94-95 2026/04/10 12:28